

第4学年1組 国語科学習指導案

指導者 鬼頭 美保子

1 日 時 平成28年11月9日(水) 5校時 4年1組教室

2 単 元 みんなで新聞を作ろう

3 単元設定の理由

本学級の児童は、男子16名、女子21名、計37名である。男子は元気が落ち着きがなく、友達同士のトラブルが多い。女子は、発言の声は小さいが、何事にも意欲的で落ち着いて生活できている子が多い。文章を書くことへの意欲は個人差が大きく、どんどん書き進める子もいれば、ずっと鉛筆が止まったままの子もいる。書く力としては、1学期の日記の宿題や理科の観察記録から、したことや思ったことを豊かに表現する力をもっている子が多いことが感じられ、本学年の児童は低学年の頃から、自分の感じたことを豊かに表現することを指導してもらってきたことが分かった。1学期の国語の「心の動きを伝えよう」では、気持ちを表現するための言葉を工夫して書くことに取り組んだ。「とびはねたくなるほどうれしい」「心臓がとび出そうなくらいどきどきした」というように工夫して表現できた子もいたが、「うれしかった」などの言葉で終わってしまった子もいた。その原因は、どのような言葉を使って自分の気持ちを表現すればよいのか分からなかったからだと考えられる。お互いに自分の考えを伝え合い、よりよいものへと深めていくために、自分の考えを分かりやすく伝えることが大切である。子どもたちが自分の考えを分かりやすく伝え合うことができるようにしたい。

本単元では、新聞に興味をもち、自分も書いてみたいという気持ちが土台となる。教室に新聞を置き、いつでも見られるような環境づくりをすることで、新聞に興味をもたせたい。また、総合学習の授業で環境について学習しており、紙すき体験をしたり、テープの巻心集めをしたりしている。こうした活動を通して、児童は地球を守る活動の大切さに気付きつつある。伝えたい相手を中央小学校の全児童とすることで相手意識をもたせ、伝えたいことを小さなメモに分けて書き、順に組み立てていくことで、相手が分かりやすい文章を書けるようにしたい。

本時では、見出しの工夫の仕方を学習する。見出しの短い言葉の中に、書き手が読み手に伝えたいことがつまっている。キーワードとなる言葉を見つけ出してまとめたもの、思わず読みたくなるようなユニークさをもっているもの、読み手に鋭く問いかけるものなど、書き手が工夫して書いた見出しは、読み手を引きつける。前時で見つけた新聞の見出しの工夫を発表し合う活動を通して、自分では気付かなかった工夫の仕方を知ることができるようにしたい。その後、新聞記者の方から見出しの大切さや見出しを書くときのこつを教えていただき、見出しを書く活動へとつなげていく。一つ一つの言葉にこだわり、よりよい見出しを考えていくことで、自分の気持ちを言葉で表現することの難しさや楽しさを感じ取ることができるようにしたい。

4 単元の目標

- ・ 新聞に興味をもち、調べたことをもとにすすんで新聞を作ろうとすることができる。(関心・意欲・態度)
- ・ 取材やグループでの話し合いのとき、話の中心に気をつけて話したり聞いたりすることができる。(話す・聞く)
- ・ 読み手が分かりやすいように、見出しや記事の書き方を考えて書くことができる。(書く)
- ・ 言葉には、考えたことを表す働きがあることに気づき、記事を書くことができる。(言語)

5 指導計画 (14時間完了)

- (1) 新聞をみんなで読んで新聞について知り、「中央小4年1組新聞会社」を作る。
自分たちで新聞を作ろうという意欲をもつ。 …… 1時間
- (2) グループに分かれて役割分担などを行い、計画を立てる。 …… 1時間
- (3) 体験やアンケート、クイズ作りを行う。 …… 3時間 (総合学習5時間)
- (4) 伝えたいことをメモにまとめ、記事を書く。 …… 3時間
- (5) 見出しを工夫して書く。 …… 2時間 (本時2/2)
- (6) 新聞のレイアウトを考え、新聞名を書く。 …… 1時間
- (7) 記事を清書し、新聞を完成させる。 …… 2時間
- (8) 書いた新聞を読み合い、感想を伝え合う。 …… 1時間

6 本 時

- (1) 目 標 見出しの書き方を学び、自分が書いた記事の見出しを工夫して書くことができる。(書く)
- (2) 準 備 教師…ワークシート、提示機、画用紙、カラーペン
- (3) 展 開 学習課題「見出しをくふうして書こう」

時間	児童の学習活動と内容	教師の支援・留意点と評価
5	<p>1 学習課題を確認する。</p> <p>2 新聞記事の見出しを見て、見つけた工夫を伝え合う。</p> <p>・「山を乱す？」という書き方を見て、本当はどうなのか知りたくなるような感じがしたから、たくさんの人が読んでくれると思う。</p> <p>・「いっぱい」をくり返していて、読んでいてリズム感がよかった。おもしろいから興味をもってくれると思う。</p> <p>・「イチロー」と「イチ流」が合わさっていておもしろい。読む人が笑顔になるからいいと</p>	<p>・ 前時の感想を紹介する。</p> <p>・ めあてを板書する。</p> <p>・ ①選んだ見出しと、②見つけた工夫を具体的に話すように知らせる。</p> <p>・ 全員が理解しやすいように、発言者が選んだ見出しを提示機で映す。</p> <p>・ 後で見出しを考えたときのポイントとなる言葉を板書する。</p> <p>〔評〕意欲：見出しの工夫に気づくことができたか。(発表・ワークシート)</p>

	<p>思った。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「持ってる?」「知ろう」と読む人に話しかけていて、読みたくなると思う。 ・文字の大きさや色を工夫してあるのがいい。ぱっと見ただけで書いてある内容が分かる。時間のない人は、見出しだけでも分かってくれると思う。 <p>1 5 3 見出しの書き方について、新聞記者の方のお話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・見出しの役割 ・見出しを考えるとときに気をつけていること <p>2 0 4 メイン記事の見出しを考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リズムよくするために、「牛乳パックが紙にへんしん!」にしよう。楽しく読んでくれそうだよ。 ・「…」を使って、「紙を作るには…?」にすると、わくわくして読んでくれると思うよ。 ・「牛乳パック、すてていませんか?」と呼びかけたら注目してくれると思うよ。 ・この言葉が大切だから、赤い色にして、大きな文字で書くと、ぱっと見ただけでよく分かると思う。 <p>4 0 5 学習を振り返り、感想を書く。 新聞記者の方にお礼の挨拶をする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・座席を前向きに戻すよう指示する。 ・子どもたちの発言についての感想と、見出しを書くときのポイントを教えていただく。 ・子どもたちが意欲的に見出しを考えることができるよう、見出しの大切さについても話していただく。 ・記事の内容に結びついた見出しを書くことができるように、記事のコピーを渡す。 ・自分の考えをもつことができるように、一人で考える時間を取る。 ・表現の工夫のよさ、読み手の受け取り方を、グループで話し合ってから決定することができるように、話し合うポイントを伝えておく。 ・グループで考えた見出しを画用紙に書いたものを黒板に貼り、お互いに工夫したところを伝え合う時間を取る。 ・新聞記者の方に感想をお話していただく。 〔評〕書く：工夫して見出しを書くことができたか。(ワークシート) ・次時は、書いた記事のレイアウトを考えることを知らせる。
視点	<p>自分で見つけた見出しの工夫を伝え合うことと、新聞記者の方にお話していただくことは、記事の見出しを工夫して書くことに有効であったか。</p>	

(4) 板書計画

学習課題

見出しをくふうして書こう

見出しのくふう

・「〜?」

↓続きを知りたい!

・リズム感

・だじゃれ

・「〜しよう」

↓よびかけ

・文字の大きさ・色

子どもたちが考えた見出し